

▶ 決算特別委員会

----- 令和4年度決算を審査 -----

日域委員長以下7名の委員で構成する決算特別委員会において、10月20日～25日、慎重に審査した結果、可決すべきものと決しました。その後本会議での採決の結果原案の通り認定。

決算
特別委員

委員長：日域 究 副委員長：末広 天佑
委員：北地 範久・小出 哲義・小田上 尚典・西村 一啓・細川 雅子

委員会における質疑及び答弁の一部

じち かい かつどう ひ じょせいきん じぎょう

▶ 自治会活動費助成金事業 371万円

Q

会員の減少で自治会の会計運営は苦しい状況にある。また、会員の役員不足や高齢化により、広報配布そのものが自治会の負担になっている。自治会の役割が増えていることも踏まえ、自治会への助成内容や広報配布の方法を見直す考えはないか伺う。

A

現在、広報配布について近隣自治体の調査を行っている。これらを踏まえながら、運営の手法や考え方は自治会ごとに様々であるため、大竹市自治会連合会とも意見交換しながら、自治会への支援や広報配布の手法を考えていきたい。

こうれいしゃ い どう し えんじぎょう

▶ 高齢者移動支援事業 163万円

Q

予算額(293万円)に対して執行額が少ない理由と、未執行となったフェリーチケットのその後の処理について伺う。

A

施設入所や入院等の理由で実際、阿多田島に居住していない方も含まれているため、執行額が約6割となった。また、未執行分のチケットについては、各個人からの申請により、フェリーの利用券を配布しているため、配布後は各個人で保管していただき、返還等は求めている。

こういきしより じぎょう

▶ 広域処理事業 9,073万円

Q

ごみ処理場管理費について、広域処理事業負担金が約1,000万円増加した理由を伺う。

A

広域処理事業負担金は、主に廿日市市が委託業者と契約している「はつかいちエネルギーグリーンセンター」の運営維持管理業務にかかる委託料に充てており、本市は、廿日市市に負担金として、令和20年度までの委託期間の計画に基づき、支払っている。令和4年度は比較的大規模なメンテナンス実施年度となっていたため、その分、本市の負担金も増加した。

や ちよう ひがい ぼうじよ しせつ せっち じぎよう
野猪等被害防除施設設置事業 29万円

Q 野猪等被害防除施設設置事業補助金の件数及び執行額について、令和2年度、令和3年度と比較して、大幅に減少している理由を伺う。

A 野猪等被害防除施設設置事業補助金は、防護柵の設置に係る費用を補助しており耕作している農地には設置が進んでいることや豚熱による被害が少なかったことにより減少傾向にある。



けん はっこう じぎよう
クーポン券発行事業 2億5,795万円

Q クーポン券発行事業について、これまでの事業の経済効果について伺う。

A クーポン券発行事業は、令和4年度まで3回実施している。実績として、
・令和2年度は2億5,167万3,500円分のクーポン券利用で率が94.5%
・令和3年度は2億5,176万3,000円分のクーポン券利用で率は95.9%
・令和4年度は2億5,120万8,000円分のクーポン券利用で率は95.8%
という結果になった。

3回とも2億5,000万円以上のクーポン券の利用があるため、単純計算でいくと、各年度で5億円以上の経済効果があったと考えられる。また、小売店の販売が伸びたことにより、小売店が利用する様々な事業者にも波及があったと考えている。

じゆうたくかいしゆうとう ほじよ じぎよう
住宅改修等補助事業 407万円

Q 住宅改修等補助事業について、予算に対して執行額が少なかった原因について伺う。

A 住宅改修等補助事業のうち、建築分については、ブロック塀等除却補助事業は10件の枠に対し申請は1件であった。また、木造住宅耐震診断補助事業・木造住宅耐震改修等補助事業は、耐震診断は3件あったが、次のステップにつながない状況で、耐震改修・段階的耐震改修・耐震シェルター等については申請が無かった。もう一つの建築物土砂災害対策改修補助事業についても、申請が無かった。
次に、住宅分については、住宅リフォーム事業は33件、383万円の補助を行った。特定空家等除却補助事業の実績は無かった。住宅リフォーム事業については、予算上の上限枠に達したため打ち切るケースもあった。



ぶん か ざいとう ふ きゅうけいはつ じぎょう

文化財等普及啓発事業 45万円



文化財保護費の文化財等普及啓発事業委託料の内容について伺う。



文化財等普及啓発事業については、大竹市歴史研究会へ文化財の説明板の制作と設置を委託して実施している。説明板は、4つ作製しており、亀居城の妙見丸跡に設置した石材の看板と西国街道の一里塚七里目と八里目に看板を設置している。最後に、玖波宿本陣跡の説明板を作製しているが、設置はできていない。

きんきゅう

じぎょう

NET119緊急システム事業 19万円



NET119や映像通報システム(ライブ119)の利用状況、また、周知・支援の方法について伺う。



NET119は、令和5年10月1日現在で9人の登録があり、使用回数は令和4年度に1件、令和5年度上半期に1件となっている。ライブ119は、これまでのところ使用実績はない。また、市ホームページや健康・福祉まつりの専用ブースでの紹介などにより、周知や個別の登録支援を行っていききたい。

議会からの提案

令和4年度一般会計及び各特別会計の審査の中で見えてきた問題点や課題について、議会から令和6年度の予算編成における提案を行いました。

令和4年度一般会計及び各特別会計の審査に際し、大竹市まちづくり基本構想が目指す8つの幸せの実現に向け、創意工夫、鋭意努力のもとに行政運営が行われていることを再確認した。しかしながら、質疑を通じでは、「人員不足により計画どおりに事業が進んでいない」「マンパワーに限界があり事業の拡充は難しい」というような答弁も散見された。

今後、ますます多様化・複雑化する住民ニーズに応えていくためには、現体制において職員が担う業務量が限界に近いところに達するように受け止められる。

身近な幸せを実感できるまちづくりを将来にわたり推進し、本市の魅力をより一層向上させていくため、質・量、双方の観点から人材確保・人材育成を能動的かつ強力に推し進めることができるよう、令和6年度当初予算編成において反映されるよう提案するものである。併せて、本市を就職先として選んでもらうための魅力発信や、DXによる効果的な人材活用策など、多角的な視点での取組を提案する。

